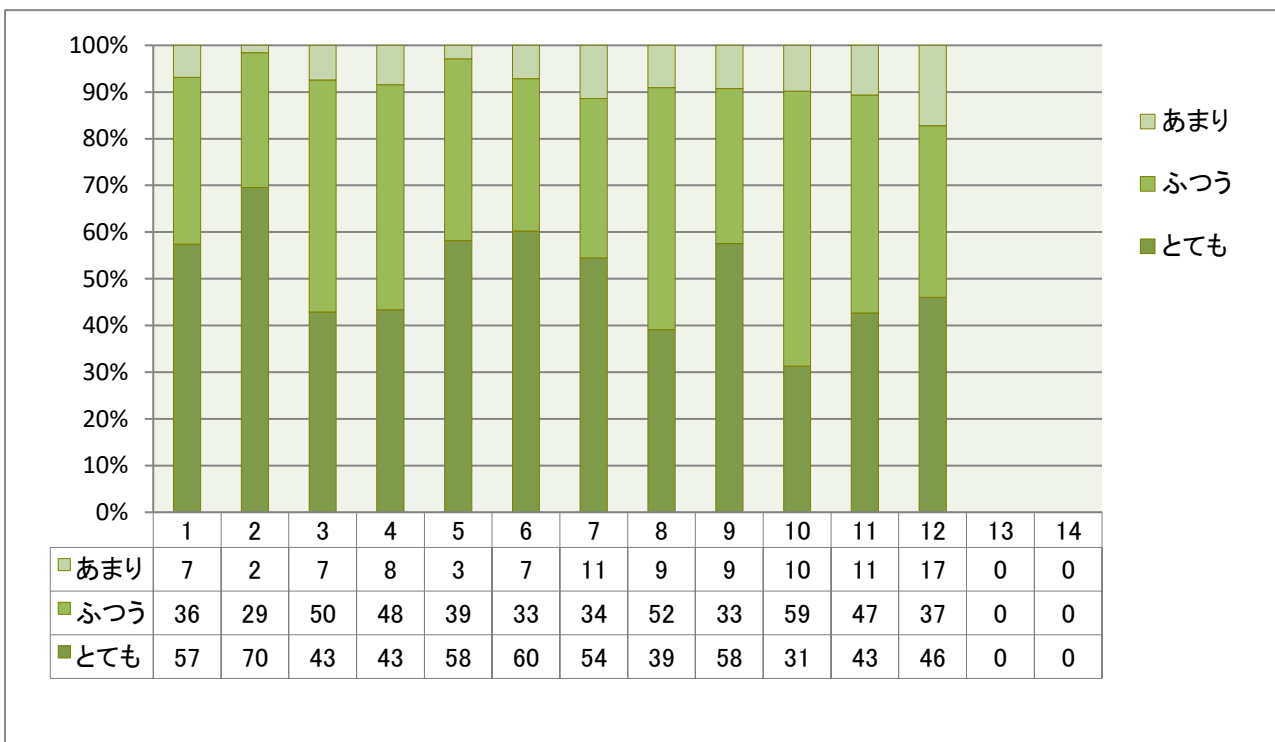


令和2年度 にこにこアンケート(児童) 結果・考察

1	あなたは、 <small>がっこう たの</small> 学校 <small>が</small> 楽しいですか。
2	あなたは、 <small>ともだち</small> 友達となかよくしていますか。
3	あなたは、 <small>がっこう</small> 学校で、 <small>ともだち</small> 友だちの話を聞いたり、 <small>じぶん おも</small> 自分の思ったことを伝えたりすることができますか。
4	あなたは、 <small>がっこう</small> 学校ですすんで <small>がくしゅう</small> 学習していますか。
5	あなたは、 <small>ともだち</small> 友達にやさしくしていますか。
6	あなたは、たてわり <small>かつどう</small> 活動などで、いろいろな人とかかわることが <small>たの</small> 楽しいですか。
7	あなたは、すすんで <small>からだ</small> 体をうごかしていますか。
8	あなたは、 <small>けんこう</small> 健康のことを <small>かんが</small> 考えて <small>しょくじ</small> 食事をとっていますか。
9	あなたは、 <small>びょうき</small> 病気やけがをしないように <small>き</small> 気をつけて <small>せいかつ</small> 生活していますか。
10	あなたは、 <small>がっこうせいかつ</small> 学校生活の <small>まも</small> きまりを守ることができますか。
11	あなたは、 <small>じぶん</small> 自分つくりパスポートなどで、 <small>つぎ むくひょう た</small> 次の目標を立てることができますか。
12	あなたは、 <small>しんぱい</small> 心配なことや困ったことがあるとき、 <small>ひと</small> おうちの人や先生、 <small>せんせい まわ</small> 周りの大人に話すことができますか。
13	あなたは、 <small>まち</small> 地域のお祭りや活動などに進んで参加していますか。 (夏祭り、清掃ボランティア、子どもフォーラム、チルドレンサークル、地域防災訓練、ラジオ体操など)
14	あなたは、 <small>まち</small> 地域の方とかかわる学習が楽しいですか。 (幼保小交流、小中交流、駅前かたん、町たんけん、お店たんけん、長寿会の方との交流、出前授業など)



○確かな学力に関する設問について(設問3・4)

設問3は、今年度も90%以上の児童が「とても」「ふつう」と答えている。昨年度よりも「とても」と答える児童が減り、「ふつう」と答える児童が増えたが、「あまり」と答える児童に差はなかった。感染症拡大防止のため、友達との交流が減ったり限定されたりしたものの、可能な範囲での伝え合いはできていると考えられる。高学年になるにつれ、「あまり」と答える児童が少なくなる傾向が今年度も見られたため、低学年から安心して話せる雰囲気づくりや話し方、聞き方の具体的支援を引き続き指導していくことが大切だと思われる。感染症拡大防止のため、学習できる内容や方法が制限された中であったが、設問4では、「とても」「ふつう」が90%以上を保っている。今後も学習の方法や形態を工夫し、主体的な学びを積み上げていけるように支援していきたい。

○豊かな心に関する設問について(設問5・6)

設問5は、今年度も90%以上の児童が「とても」「ふつう」と答えている。人との関わりが概ねできている児童が多いと思われる。設問6のたてわり活動について「とても」「ふつう」と答えた児童は、昨年とほぼ変わらないが、4ポイント増えている。今年度は、感染症拡大防止の観点から、ペア学年での活動を行った。自分のペアが決まっていることで、限られた時間の中でも、交流する楽しさを感じられたのではないかと考える。人との関わりが苦手な児童も、安心して過ごせるように、今後も引き続き活動の内容を見直しながら支援していきたい。

○健やかな体に関する設問について(設問7・8・9)

設問7は、昨年度とほぼ変わっていない。活動に制限がある中でも、すすんで体を動かそうという意識をもって過ごしていたと考えられる。設問8では、「とても」が8%減り、「ふつう」が増えている。感染症拡大防止のため、給食では黙って食べることが必要となり、栄養や食事の仕方については指導が難しかったが、落ち着いて味わいながら食事をすることができた。設問9については昨年度とほぼ変わらないが、設問項目にはない、手洗い等の感染予防についても、習慣付けることができた。今後も、児童が心身ともに健康で楽しく過ごせるよう支援していきたい。

○児童指導に関する設問について(設問1・2・10・11・12)

設問10では、昨年度に引き続き「とても」「ふつう」と答えた児童は90%程度いる。しかし、「とても」と答えた児童が少し減っている。今年度は感染症拡大防止のためのきまりを細かく確認し、継続して指導してきたことにより、児童がきまりを常に意識し、自分の行動を振り返る機会が増えたのではないかと考える。新しい生活様式の中でも、戸惑いなく安心して安全に過ごせるように、きまりについては、職員、子ども、家庭と共通理解して指導していく。設問11については、「とても」が大きく減少した。この設問についても、今年度は行事や学習の制限があり、いつもと違った形で行われるなど、先の見通せない状況が影響していると考えられる。また、設問12では、大きな変化はないものの、いつもとは異なる環境の中、自分から声をかけることができない児童もいると考えられる。児童が見通しをもって安心して過ごし、また、安心できる存在が近くにいると感じられるよう、引き続き、保護者の方や地域の方、職員と連携してきめ細かに寄り添っていくことを心掛けていきたい。

結果を見ると、全体に昨年までと大きな変化はないが、今年度は感染症拡大防止のために活動が制限されたり、学校生活のきまりが変わったりしたことによる影響が感じられる。これまでに根付いた様々な教育活動を大切にしながら、新しい生活様式の中で、教育活動の方法などを工夫していくことが大切だと思われる。引き続き、保護者の方や地域の方にも協力していただきながら、だれもが安心して学校生活を送ることができるよう努めていきたい。

